

古代ローマの軍事医学に関する研究は、René Brianの一連の研究以来すでに百年以上の研究史をもっているが、その結果、ローマ帝国軍は本格的な軍医制度と軍事病院を備えた最初の軍隊であったことに関心が寄せられてきた。帝国各地で発見された碑文は、補助軍、海軍を含めたローマ帝国の全軍隊に医療に従事することを任務としていた人々がいたこと、とりわけ *medicus* と呼ばれる軍医が制度化されていたことを示している。また、軍隊の駐屯地跡で発掘された軍事病院 (*valetudinarium*) は、それらがよく整備されたものであったことから、病院の運営を担当した専門家集団が存在したことを示しているし、発掘された医療器具はそれらの使用に習熟した医療スタッフが軍隊内にいたことを示唆している。現在、多くの研究者たちがローマ軍内の発達した医療組織の解明に努力しているが、今回は碑文史料にみられる *medicus* に関する言及から軍隊内の軍医をめぐる問題点を検討した。

法學史料には、医療関係者と推測される複数の職名が挙げられていることからみて、軍隊内には軍医のほか、看護兵、衛生兵のような兵士や軍事病院の管理・運営を担当したと思われる兵士たちもいたことはわかっている。問題はそうした人々と軍医がどれだけ違っていたのかという点と、軍医たちの間に階級差があったか否かである。帝政期の碑文は、イタリヤおよび属州のローマ軍の全部隊、しかも艦隊にも軍医が配属されていたことを示して

いるが、碑文に登場する軍医の呼称はつぎの六種類である。(1) *medicus legionis/cohortis/alaе* (2) *medicus castrorum/castrensis* (3) *miles medicus* (4) *medicus ordinarius* (5) *medicus duplicarius* (6) *medicus clinicus/veterinarius/chirurgus*。軍隊内の軍医の地位に関して一番議論が分かれるのが、(3)、(4)であるが、これらの史料から推測できることは、軍医の間にも階級差はあり、地位の低い兵卒クラスの軍医から地位の高い将校待遇を受ける(しかし、百人隊長ではない)軍医にまで分かれていたらしい。また、各コホルスに最低一人の軍医がいたとすれば、ローマ軍全体ではかなりの人数の軍医が必要だったと思われる。軍隊はどのようにしてそれだけの軍医を確保したのか、という疑問を解くためには、どうしても一般社会における医師をめぐる状況を視野に入れなければならない。軍隊内での軍医の養成を認める一方で、「契約医」の存在を認め、多数のギリシア人医師の軍隊入りを想定すべきであろう。軍医制度はたんに兵士の健康管理に役立っていたばかりでなく、属州におけるローマ化にも寄与していたのである。

(平成元年十一月例会)